

学校評価用アンケート(学校教育自己診断)

【生徒用】

()年 ()組

・各設問について、右の基準により、回答欄の当てはまる番号のところに○印を入れてください。
 ・各設問で**C・Dを選択した場合のみ**、できる限り学校を改善するための「提言」や「ご意見」を各設問の下段にご記入ください。なお回収後、開封は管理職で行います。

基準	
A	大変思う
B	思う
C	あまり思わない
D	まったく思わない
E	わからない

回答数 90 /91

回収率 99%

	設問	A	B	C	D	E
1	学校に行くのが楽しい。 ()	38	35	11	6	0
2	先生はわたしたちのことを大切にしている。 ()	51	32	3	4	0
3	将来の進路や、生き方について考える機会がある。 ()	43	35	6	4	2
4	先生はいじめについて、私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。()	47	34	3	2	4
5	担任の先生以外にも保健室等、気軽に相談することができる先生がいる。()	30	32	17	9	2
6	命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある。 ()	42	38	7	1	2
7	学校行事(すながわ祭、スポーツ大会等)は楽しく行えるように工夫されている。()	48	29	6	6	1
8	学校は1人1台端末を効果的に活用している。 ()	46	31	7	5	1
9	先生は私たちの障がいについて、よく理解してくれている。 ()	41	33	7	5	1
10	学校への意見、要望等がありましたら、記入してください					

肯定回答 AB			
R05	R04	前年比	R03
81%	73%	8	81%
92%	84%	8	91%
87%	93%	-6	88%
90%	80%	10	85%
69%	62%	7	72%
89%	90%	-1	94%
86%	84%	2	93%
86%	92%	-6	
82%	80%	2	78%

学校評価用アンケート（学校教育自己診断）

【保護者用】

() 年 () 組

- ・各設問について、右の基準により、回答欄の当てはまる番号のところに○印を入れてください。
- ・各設問で、**C・Dを選択した場合のみ**、できる限り学校を改善するための「提言」や「ご意見」を各設問の下段にご記入ください。**なお回収後、開封は管理職で行います。**

基準	
A	大変思う
B	思う
C	あまり思わない
D	まったく思わない
E	わからない

回収率 76%

回答数 69 / 91

設問	A	B	C	D	E
1 子どもは、学校に行くことを楽しみにしている。 ()	29	34	4	1	1
2 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。 ()	14	41	6	0	8
3 学校の生徒指導の方針に共感できる。 ()	28	36	1	1	3
4 学校は、将来の進路について適切な指導を行っている。 ()	32	33	3	0	1
5 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。()	33	24	0	0	12
6 学校は子どもに生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。()	30	36	2	0	1
7 学校は教育情報について、提供の努力をしている。 ()	29	35	2	0	3
8 この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。 ()	42	22	1	1	3
9 学校は、子どもの障がいについてよく理解している。 ()	25	34	3	3	4
10 学校へのご意見、ご要望等がありましたら、ご記入ください。					

肯定回答 AB			
R05	R04	前年比	R03
91%	84%	7	93%
80%	85%	-5	88%
93%	89%	4	86%
94%	92%	2	91%
83%	76%	7	81%
96%	92%	4	99%
93%	93%	0	92%
93%	89%	4	95%
86%	86%	0	86%

学校評価用アンケート（学校教育自己診断）

【教員】

基準	
A	大変思う
B	思う
C	あまり思わない
D	まったく思わない
E	わからない

回収率 100%

回答数 44 /44

肯定回答 AB

	設 問	A	B	C	D	E	肯定回答 AB			
							R05	R04	前年比	R03
1	学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。 ()	19	24	1	0	0	98%	96%	2	91%
2	教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている。 ()	6	34	2	0	2	91%	93%	-2	91%
3	学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。 ()	22	19	3	0	0	93%	91%	2	91%
4	生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導をおこなっている。 ()	22	18	3	0	1	91%	100%	-9	96%
5	いじめの(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。 ()	31	12	0	0	1	98%	100%	-2	93%
6	教育相談体制が整備されており、生徒と学級担任以外の教職員とも相談することができる。 ()	20	22	2	0	0	95%	96%	-1	91%
7	学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。 ()	21	22	1	0	0	98%	98%	0	93%
8	教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。 ()	20	22	1	0	1	95%	96%	-1	91%
9	生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている。 ()	23	20	1	0	0	98%	100%	-2	96%
10	学校への意見等がありましたら簡潔にご記入ください。									

ご協力ありがとうございました。

令和5年度「学校教育自己診断」の結果と分析

○令和6年1月、生徒、保護者、教員を対象に実施。生徒 99%、保護者 76%、教員 100%の回収率で、昨年の回収率とほぼ同様の数値であった。（教員の回収率が 100%を維持）本年度も、生徒、教員のアンケートについてはフォーム作成ツールを使用し、保護者については従来通りプリントを配付し実施した。

○生徒・保護者アンケート

【進路指導等】

「将来の進路や、生き方について考える機会がある」「学校は将来の進路について適切な指導を行っている」の質問では、肯定的評価が生徒 87%で昨年より6ポイント減、保護者 94%で2ポイント増加している。授業の中での仕事調べ、進路のてびきや進路だよりを使った HR での指導、長期休みの間のお手伝いの宿題等、学校と家庭とが連携して取り組んでいる。1年生前期から現場実習を行っているが、「自分の将来を考える場」としての意識付けを強化して取り組む必要がある。

【生徒理解、人権教育等】

「命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある」は生徒 89%で1ポイント減、保護者が 96%で4ポイント肯定的評価が増加している。同和問題や LGBTQ などについて（大学教授や当事者の方などの）出前授業を通じて実際の出来事を体感する機会を昨年度に引き続き行っている。「学校はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」については、生徒が 90%で10ポイント増、保護者が 83%で7ポイント増であった。道徳の授業では自己を理解することや他者を理解し適切なコミュニケーションを身につけることを目標に掲げ、事例を挙げて様々なことを3年間で学んでいる。学習したことが自分ごとと感じられるように、関連する教科と連携し、日常の HR での指導に生かすことに加え、家庭との連携を次年度はより丁寧に指導・支援をしていく必要がある。

【ICT】

「学校は1人1台端末を効果的に活用している」は、生徒の肯定的評価が 86%で昨年度より6ポイント減であった。朝の自立活動や授業の中で ICT を活用し、一人ひとりの意見を視覚的に理解できるような授業展開を日常的に続けているが、「1人1台端末」という意識が薄くなってしまったことが原因の一つと考えられる。

○教員のアンケート

全項目で肯定的評価が 90%以上であり、前年度とほぼ同様の結果となったが、昨年度に比べわからないという回答がやや増加した。創立 10 周年を迎える本校では教員の入れ替わりも多くあったことに加え、コロナ禍での制限が解除され、通常の活動に戻すこの1年

間は戸惑うことも多かったと感じる。教育活動の評価をしっかりと行い、次年度の計画に生かすことができるよう、教員研修の機会を確保する必要がある。学校としての目標を教員一人ひとりが意識して、一貫した教育ができるようにしたい。

「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」については、肯定的評価が98%と2ポイント増加した。職員朝礼での伝達事項は共有化した表計算ツールを活用することにより、職員室以外で活動する教員にも迅速に情報の共有ができるようになっていく。「いじめの（疑いを含む）が起こった際の体制」98%で昨年度より2ポイント減、「生徒一人ひとりの興味・関心、適性に応じて進路選択ができる」91%で9ポイント減については、教員が教育活動を理解し、迅速に適切なルートで情報共有することで改善されると考えられる。

教員アンケートについて肯定的評価は高いものの、「大変思う」より「思う」の割合が高い項目がある。主語が「私は」の場合は「頑張っている」と言えるが、「学校としては」の場合は「まだ改善の余地がある」と感じている部分があると読み取れる。担任、学年団、学年のつながり等、教職員の共通理解や日常的な話し合いが密にとれるような工夫が必要である。とくに、「できない」という否定的な意見ではなく、「できる」改善案が出せる話し合いの場が必要である。